

# 紀尾井だより

9/10 September / October 2023 [Vol.161]

トレヴァー・ピノック

「メンデルスゾーンは私のヒーロー」

2023年度下半期

邦楽主催公演 ラインナップ

連載

歌舞伎をめぐる音楽のことごと 第三回

歌舞伎と常磐津

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

「ハイドンの1784年」をめぐる3話



© Gerard Collett



# トレヴァー・ピノック

## メンデルスゾーンは私のヒーロー

取材・文／後藤菜穂子(音楽ライター)

2022年度から紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)の首席指揮者に就任、「すべてのメンバーが周到な準備を経てリハーサルに臨むKCOで演奏するのが毎回大きな喜び」と語るトレヴァー・ピノックに、第136回定期演奏会に向けてメンデルスゾーンと今回のプログラムについて聞きました。

### バッハの系譜を継ぎつつ 新しい音楽を作り出す

——9月の定期演奏会ではオール・メンデルスゾーン・プログラムを取り上げます。今回、なぜ彼の宗教音楽に焦点を置こうと思われたのでしょうか。

**トレヴァー・ピノック (以下、P)** 私と

紀尾井ホール室内管弦楽団はこれまでに J. S. バッハの《ミサ曲短調》およびモー

ツァルトの《レクイエム》といった宗教曲の名作を取り上げ、一つの伝統を築いてきました。今回のメンデルスゾーンの宗教音楽のプログラムはその延長上に位置づけられるものと言えます。

——ピノックさんご自身にとってメンデルスゾーンはどういった存在でしょうか。

**P** 昔からメンデルスゾーンは私のヒーローの一人です。彼は J. S. バッハの音楽

を愛し、その伝統が C. P. E. バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトを通して継承されていったことを自覚しつつ、その一方で同時代の新しい音楽も積極的に受け入れました。こうしたことからメンデルスゾーンが音楽家としていかに広いヴィジョンを持っていたかが分かります。その音楽はきわめて特徴的であり、しばしば他の作曲家とは異なる独自の語法を用いており、強く惹かれます。

### コラールに聴く、 メンデルスゾーンの深い信仰の世界

——メンデルスゾーンのキリスト教徒としての信仰がこのプログラムの一つのテーマだと思うのですが、本公演で取り上げる3作品において彼の信仰はどのように反映されていると思われますか？

**P** メンデルスゾーンは非常に深い信仰の持ち主でした。オラトリオ《聖パウロ》の

序曲、詩篇第42番、交響的カンタータ《讚歌》に共通しているのは、3曲ともコーラルが用いられている点です。こうしたコーラルは当時の聴衆にとっては日々の信仰生活の一部であり、人々はそれを聴けばたちまち彼がこれらの音楽で賛美している世界へと引き込まれたことでしょう。

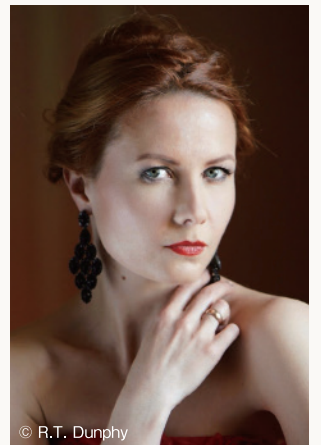
—— コンサートはそうしたコーラルの一つ、「目覚めよと呼ぶ声あり」に基づく《聖パウロ》の序曲で幕を開けます。

**P** 《聖パウロ》は素晴らしい作品ですが、なかなか演奏されません。この序曲はオーケストラによって演奏されるよりも、オルガン編曲で聴く機会のほうが多いのですが、今回のプログラムの幕明けにはびつたりの音楽だと思っただけです。「目覚めよと呼ぶ声あり」のコーラルと、《讚歌》のコーラル「いざやもろびと、神に感謝せよ」が引き立て合っていると思います。

—— ピノックさんは《讚歌》を、2009年のメンデルスゾーン・イヤーに彼ゆかりの



© Tomoko Hidaki



© R.T. Dunphy

ラリーナ・ベンジューナイテ

ライブツイヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団と演奏されたそうですね。この曲に対するアプローチについてお聞かせください。

**P** メンデルスゾーンはこのハイブリッドの作品—— すなわち交響曲でもなくオラトリオでもない—— において新しい形式を創り出しました。オーケストラによる長大な冒頭楽章で始まり、それがやがてきわめて個人的な神への讚歌に統合されていくのです。私が指揮者としてもっとも重要視している点は、曲全体の統一性を図り、最初の音から最後の音まで大きな弧を形作ることです。

—— 詩篇第42番の聴きどころについて教えてください。

**P** メンデルスゾーンは必ず抜けた旋律の才を持ち、どうすれば独唱者にとって歌いやすく、流れるような旋律を作曲できるかを熟知していました。また合唱についても同様で、きわめて入念な声部書法で書かれているにもかかわらず、自然に聴こえるのです。

## 大好きな歌手たちを迎えて 素晴らしい公演を確信

—— 今回の独唱者たちとはこれまでも共演されていらっしゃるのでしょうか？ また、日本の合唱団についてはどんな印象をお持ちでしょうか？

**P** テノールのマウロ・ペーターさんとソプラノのラウリーナ・ベンジューナイテさんはたびたび共演してきた大好きな歌手たちです。またメゾソプラノの湯川亜也子さんが加わってくくださることもとても楽しみにしています。これまでご一緒した東京の合唱団はいずれも反応がよく、確かな手応えを感じてきました。きっと素晴らしい公演になるだろうと確信しています。

—— 2022/23年はピノックさんにとってどのようなシーズンでしたか？ また紀尾井ホール室内管弦楽団との共演以外の来季のご予定についてお聞かせください。

**P** 今季は忙しく、ほとんど休みなく飛び回ってました。それにくらべると、来季



© christian felber

マウロ・ペーター

## ピノックと紡ぐ美しい賛美歌 紀尾井ホール室内管弦楽団 第136回定期演奏会

[出演]

トレヴァー・ピノック(指揮)

ラリーナ・ベンジューナイテ(ソプラノ I 独唱)

マウロ・ペーター(テノール独唱)

湯川亜也子(ソプラノ II 独唱)

新国立劇場合唱団(合唱) / 紀尾井ホール室内管弦楽団

[曲目] オール・メンデルスゾーン・プログラム

オラトリオ《聖パウロ》op.36, MWV A 14~序曲

詩篇第42番《鹿が谷の水を慕うがごとく》op.42, MWV A 15

交響的カンタータ(交響曲第2番)《讚歌》変イ長調 op.52, MWV A 18

[特別協賛] 三井不動産株式会社

[協賛] 三井物産株式会社 三菱商事株式会社

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。



湯川亜也子

2023年度  
下半期

# 邦楽主催公演 ラインナップ

お待たせしました! 2023年度後半の公演情報をお届けします。  
好評のシリーズも魅力的な出演者と演目が満載です。

9/7  
木  
18:30

## 邦楽探検 詞章の謎 File.4 長唄「娘道成寺」

邦楽は分かりにくい! そう感じている方にお勧めの、ことばの意味を紐解くことで曲の面白さや魅力をより深く味わっていただけるシリーズ。第4回は長唄の名曲「娘道成寺」。いつも笑いに包まれる軽妙な解説が魅力の児玉竜一と花柳源九郎が、踊りのサワリも交えながら詞章を丁寧に読み解きます。その後に「鐘入り」までを花柳源九郎の素踊りとともに楽しみてください。



10/26  
木  
14:00

## 浮世絵で楽しむ邦楽 大谷コレクション3 『朝顔日記』から『切られお富』まで 女形 三代目澤村田之助

幕末から明治にかけて美貌の女形として人気を博した歌舞伎役者・三代目澤村田之助を取り上げます。狂乱物として知られる『お夏清十郎』の大和楽版「恋の菅笠」と、田之助の当たり役である『朝顔日記(生写朝顔話)』の「深雪」を大和楽家元 大和櫻笙らの演奏と、豊竹晴太夫と鶴澤清志郎、吉田和生の人形浄瑠璃でお楽しみください。また、田之助の芸を継承した四代目澤村源之助の当たり芸「お富」の口跡を、レコードに残る音源でご紹介します。



12/19  
火  
18:30

## 音楽でつづる文学6 源氏物語 -夕顔-

光源氏と逢瀬を重ねるものの、物の怪に取り憑かれて儚い一生を終える夕顔の君を題材とした作品を集めました。「うた語り」は、福田栄香が古典をなるべく崩さずその背景を、語りを交えて表現する方法を追求した新しい形の三曲合奏です。箏曲の原点・箏組歌からは、全81曲を修得した芦垣美穂が「須磨」と「扇の曲」を披露します。清元「夕顔の巻」は1995年に初演された歌舞伎舞踊曲で、今回は素浄瑠璃でお届けします。

芳年『月百姿 源氏夕顔巻』、国立国会図書館デジタルコレクション



2024  
2/12  
月・祝  
14:00

## 邦楽 明日への扉 第3回 常磐津千寿太夫(常磐津節)

常磐津節は300年以上前に江戸で生まれ、江戸で育まれたゆつたりとした重厚な曲調をもつ三味線音楽です。昭和の大名 常磐津千東勢太夫を祖父に持つ若手実力派の常磐津千寿太夫がいま語りたのは、常磐津のさまざまな表現を楽しめる小作品2曲と、上下二巻の大曲で常磐津を代表する名曲「積恋雪関扉」です。下の巻で、天下を狙う大悪人と桜の精が繰り広げる華やかな戦いを、師匠の常磐津菊寿郎の力添えのもと語りぎります。



2024  
3/24  
(日)  
14:00

## 邦楽 明日への扉 第4回 都了中(一中節)

江戸時代には「一中節の稽古本のない家はない」と言われるほど、一中節は一世を風靡し、江戸の町人の上流階級に愛好され楽しまれてきました。幼少のころより父 十二世都一中に師事し、一中節の魅力を伝え続けている都了中が今回選んだ作品は、若衆歌舞伎の少年役者が寿ぐ「都若衆万歳」、京都の辰巳の方角にある宇治を舞台に、里の美しい自然や人々の穏やかな日常が描かれた「辰巳の四季」、深い精神世界を音楽で表現した「石橋」です。絶妙なトークも必聴です。



2024  
日程  
調整中

## 音楽でつづる文学7 源氏物語 -女三宮-

のちに源氏の妻となる内親王・女三宮に恋焦がれていた、頭中将の嫡男・柏木。二人の密通が源氏の不興を買い悲劇が始まります。この物語を、昭和26年の歌舞伎公演のために宮城道雄が作った音楽に朗読を加えて再構成した『源氏物語』、女三宮と柏木の出会いを描いた箏組歌「薄衣」、能「遊行柳」より詞章を取った地歌「新青柳」の3つの演目で描き出します。

鈴木春信『女三宮と猫』1925.2071. The Art Institute of Chicago.



※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

歌舞伎をめぐる

# 音楽のことごとく

第三回

## 歌舞伎と常磐津

### 一 中節と豊後節

常磐津のお話をするのには少し前口上  
が必要です。大坂で二代の人気者となった



常磐津節の演奏(2018年5月28日 江戸三味線音楽の変遷第十回公演より)

竹本義太夫の浄瑠璃は、よほど魅力的なものだったでしょう。誰もが当人の名で「義太夫節」と呼ぶようになりました。近松門左衛門と組んで大ヒットとなった「出世景清」より前の浄瑠璃を古浄瑠璃と呼びます。バッハ以前のヨーロッパ音楽を慣習的分類で「音楽史」と呼びますが、義太夫という人は近世の浄瑠璃史においてバッハのような存在と申せましょう。

京の都に、その義太夫よりひとつ歳上で、まったく異なる浄瑠璃を拓いた名人がおりました。初代都一中その人で、もとはお寺の次男坊、住職から還俗して作曲家になりました。それまでの浄瑠璃の美味いところを採りながら風雅で柔らかかなものにつくり直した一中節は元禄(1688)からあと大いに流行しました。近松とも交流があり、「小春髪結」は近松の作詞と言われます。都一中の門弟から独立したのが宮古路豊後掾で、心中物を得意とし、京都から流行して江戸でも名声を極めました。ところが豊後節に感化されて本当に心中するという事件が続出したので、とうとう奉行所から上演禁止命令が出て、豊後掾は京に戻って亡くなりました。

### 三味線音楽のロマン派

その豊後節から独立した初代常磐津文字太夫(1709~1781)が延享四年(1747)に江戸で始めたのが常磐津節です。豊後節の柔らかみと義太夫節の骨

太のドラマを巧みに融合したやや男性的な芸風で、常磐津という言葉には「栄える関東(江戸)の都」の意味が込められています。三味線は中棹を用い、リズムカルな撥さばきにも魅力があります。太夫の語り口は豪快な立役から可憐な女方まで幅が広く、「江戸の義太夫」というところを狙いました。私は、「仮名手本忠臣蔵」など人形浄瑠璃(いまの文楽)の音楽として天下に知られた義太夫節を王者ベートローヴェンとするなら、常磐津はベルリオーズからワグナーへと続くロマン派と考えています。だから歌舞伎が爛熟してうんとロマンティックになった天明(1781)のころには舞踊劇の音楽としておおいに重用されました。

### 名曲の数々

代表的な大曲「積恋雪関扉」(1784)



© 松竹株式会社

「積恋雪関扉」1972年1月歌舞伎座  
(六代目中村歌右衛門・八代目松本幸四郎・二代目中村属治郎)

をぜひ聴いてください。八十分を要する歌舞伎舞踊の大曲で、一日がかりで上演された芝居の中で演じられました。雪深い逢坂の関に冬だというのに古木の桜が満開です。美しい小野小町とその恋人・少将宗貞に、関所の番人に化けて国家転覆を狙う大伴黒主がからむのが前半、後半はその古木から桜の精が現れ黒主の正体を暴き、鉞を手にした黒主と対決するファンタジックな舞踊劇です。桜の精は黒主一味に殺された少将の弟と契つていて、亡き恋人の敵討ちに現れるのですが、この発想は、ワグナーの楽劇《ニーベルングの指環》(全曲初演1876)のブリュンヒルデにも負けておりません。

十九世紀には変化舞踊に常磐津が登場します。清元の人気曲「うかれ坊主」は、元は常磐津の「願人坊主」(1811)です。「年増」(1839)のような洒落た色気のある名品もあります。正月の風物詩を描いた「乗合船恵方萬歳」(1843)は登場人物が多く、語り分けに演奏者の腕が光ります。私が子どもころ、大企業の重役さんやオーナー会社の社長さんはよく常磐津をなさいました。セリフが喋れどかつ歌謡性もあるので芝居好きにはことに人気でした。常磐津は懐の深い、じっくりと味わいたい音楽です。

文/岡崎哲也(松竹株式会社  
常務取締役/東京交響楽団理事長)

クラシック音楽の  
テーマに基づく3つの話

# 「ハイドンの 1784年」を めぐる3話

紀尾井ホール室内管弦楽団第137回定期演奏会の演目を彩るヨーゼフ・ハイドンの《交響曲第81番》は、1784年に作曲されました。ハイドンにとって、1784年とはどのような年だったのでしょうか。

## 1 ロンドンが呼んでいる

公開演奏会や楽譜出版業の一大中心地だったロンドンでは、ハイドンの音楽は早くから知られていましたが、1780年代



ヨーゼフ・ハイドン

に入るとその人気に拍車がかかり、本人の来訪を望む声も日増しに高まっていきました。そうした声に応えるべく、ハイドンは1784年ごろ、ロンドンに演奏旅行に出かける計画を立てました。交響曲の第76〜78番の三曲は、ロンドンの聴衆の前で披露するために作曲したと考えられています。

結局、この計画は何らかの理由で頓挫してしまいましたが、自分の音楽がロンドンで「売れる」確信を得ていたハイドンは、このころ、現地の出版業者に積極的に自作の楽譜を売り込んでいます。《交響曲第81番》の楽譜も、第79番、第80番とのセットで、ほかの都市に先駆けてロンドンではじめて出版されました。ハイドンは当時、エステルハーザ家の宮廷楽長として、一年の大半を同家の離宮エステルハーザで過ごしていました。ハンガリーの片田舎で孤絶した生活を強いられていた彼にとって、外の世界とのつながりは創作の大きな励みになっていたに違いありません。

## 2 「交響曲の父」は オペラ作曲家だった?

今では交響曲作家のイメージが強いハイドンですが、このころの職務はもっぱらオペラに関わるものでした。1776年にエステルハーザ宮の劇場で本格的なオペラシーズンが行われるようになってからというもの、ハイドンは毎年100前後

の公演を指揮し、およそ一年に一作のペーソスで新作のオペラも作曲していました。1784年に完成した《アルミダ》は、彼の中ではもっとも成功した部類に入るオペラで、5年間で54回上演されています。また、年の瀬の12月18日には、《報われた誠》(1780年作曲)が、ウィーンの聴衆の前でも披露されています。

ハイドンは後年、機会にさえ恵まれていれば自分も一流のオペラ作曲家になれたはずだと語っていますし、声楽曲全般に対するこだわりも強かったといえます。まさか自分がのちに「交響曲の父」と呼ばれるようになることは、このころは思いもしなかったことでしょう。

## 3 妻と愛人とハイドン

ハイドンは1760年に結婚しましたが、妻マリア・アンナとの関係は当初から芳しいものではありませんでした。若いころにお世話になった一家の長女ということと、ほとんど義理で結婚したようなものでしたし、性格にも難があったと伝えられています。それでもふたりは長い間ともに暮らし、エステルハーザにも毎年夫婦で赴いていました。しかし、1784年ごろ、マリア・アンナは夫を残して離宮を去り、ひとりウィーンに移住してしまいます。

いっぽうのハイドンはというと——当時、宮廷楽団の一員だったイタリア人歌手

ルイージア・ポルツェッリと「親密な仲」だったのは、宮廷内ではおそろしく公然の秘密でした。ルイージアは、歌手として特段すぐれていたわけではありませんでしたが、ハイドンはそんな彼女の技量に合わせて、わざわざ既存のアリアに手を加えてオペラを上演したりもしています。夫婦生活は幸せなものとは言えませんが、ハイドンはハイドンで、宮廷楽長という立場も利用しつつ、それなりにうまくやってきたようです。

文/池上健一郎(京都市立芸術大学教授)

### 1784年のハイドンに思いを馳せながら… 紀尾井ホール室内管弦楽団 第137回定期演奏会

【出演】  
オッターヴィオ・ダントーネ(指揮・ピアノ)  
デルフィヌ・ガルー(コントラルト)  
紀尾井ホール室内管弦楽団

11/17 (金) 19:00  
11/18 (土) 14:00

【曲目】  
ヘンデル : 歌劇《アルチーナ》HWV34～序曲、アリア〈復讐してやりたい〉  
ヘンデル : 歌劇《リナルド》～アリア〈風よ、暴風よ、貸したまえ〉  
ボルボラ/ダントーネ編: ピアノ協奏曲ト長調(原曲:チェロ協奏曲)[アジア初演]  
ヴィヴァルディ : 歌劇《救われたアンドロメダ》～アリア〈太陽はしばしば〉  
ハイドン : 交響曲第81番ト長調 ほか

【特別協賛】三井不動産株式会社  
【協賛】三井物産株式会社 三菱商事株式会社

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

## 第33回 日本製鉄音楽賞 受賞記念コンサート 開催

7月21日(金)紀尾井ホールで、第33回日本製鉄音楽賞 受賞記念コンサートを開催しました。前半は特別賞を受賞した高木裕さんのトーク。古いピアノを探求することで新しい音楽の世界が見えてくるというお話はさまざまな社会課題の追究にも通じ、たいへん興味深いものでした。続いてフレッシュアーティスト賞・務川慧悟さんによるコンサート。パリ国立高等音楽院で現代ピアノの研鑽を積み、現在は同院で歴史的ピアノを究める務川さん。ショパンなどにはタカギクラヴィア所有の1843年製プレイエルを、モーツァルト、ガーシュイン、ラヴェルの作品は紀尾井ホールの21世紀に作られたスタインウェイを、そしてアンコールのトロイメライにはタカギクラヴィア所有でホロヴィッツが愛奏した1897年製スタインウェイを、的確な様式感とともに見事に弾き分けて大きな喝采を博しました。このコンサートの模様は8月末に動画配信される予定です。



## トネッティとACO首席メンバーらのユニットで KIOI JAZZ WEEK 2023

**出演**

リチャード・トネッティとオーストラリア室内管弦楽団(ACO)は、10月9日(月・祝) KIOI JAZZ WEEK 2023(於・東京ガーデンテラス紀尾井町)に、トネッティとACO首席メンバーらによる豪華ユニットで出演します。10/10(火)の紀尾井ホール公演とともに聴くと、ジャンルを超えて縦横無尽に演奏を繰り広げるトネッティの魅力が余すところなく楽しめます。

### KIOI JAZZ WEEK 2023 —Sing, Sing, Sing—

オーストラリア室内管弦楽団  
トップメンバーによるスペシャルライブ

[出演]  
リチャード・トネッティ(ヴァイオリン)ほか  
ACO首席メンバーらによるユニット

[会場]  
紀尾井カンファレンス メインルーム

[日時]  
10月9日(月・祝) 15時(開場:14時15分)

[料金(税込) 全席指定  
一般 3,000円  
SEIBU PRINCE CLUB会員 2,500円

[発売] 9月上旬(予定)  
<https://www.tgt-kioicho.jp/>にてご案内予定

〈お問合せ〉

東京ガーデンテラス紀尾井町 イベント事務局  
tgt-k-event@seibupros.jp

※紀尾井ホールウェブチケットでのお取扱いはありません。

### 予約したはずのチケット、発券情報が見当たらない …… どこで調べたらいいの?

日本製鉄文化財団 主催公演チケットTIP③



まずは予約完了時に受信した直近のメールをご確認ください。発券情報のあるメールが見当たらない場合は、紀尾井ホールウェブチケットにログインして、お客様の「マイページ」の項目を開きます。「マイページ」の「申込履歴」を選ぶと、これまでに予約したすべてのチケットの一覧が表示できます。「申込履歴」に表示されない公演については、予約手続きが完了していません

ので、改めて予約手続きを行ってください。また、青色太字の予約番号をクリックすると決済情報やコンビニ発券情報を確認することができます。

TIPのコーナーでは当財団主催公演チケットの「購入手続き中でのヒント(Tips in Purchase)」をご紹介します。

### 今号の表紙

## 『チェロと マリーゴールド』

[協力] 花/レ・ミルフォイエドゥ・クリベルテ 紀尾井町店

街でよく見かけるマリーゴールド(marigold)。「聖母マリアの黄金の花」という意味で、聖母マリアの祭日にいつも黄金のような花を咲かせていたことに由来するそうです。可憐ながら強くたくましく、

年間を通して花を咲かせます。チェロは低音から高音まで4オクターブもの音域を持ち、時にたくましく、時に繊細に響く音色はいつの時代も人々を魅了してやみません。

### 紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

#### 紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・株式会社等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所  
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行  
 三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社  
 《ひびき会員》オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計  
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エケーディ/荏原冷熱システム/鹿島建設/  
 ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/  
 千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/  
 パナソニック/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/  
 ミュージョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21  
 《おおい会員》青木陽介/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/岩城宏斗司/  
 上野真志/馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/久保なほ子/太田清史/小川 保/小倉 ヒロ・ミハエル/  
 糟谷敏秀/片山國正/片山龍輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/  
 木谷 昭/楠野貞夫/栗山信子/河野紗妃/小坂部恵子/小西美由紀/斎藤公善/坂詰貴司/佐久間庸行/  
 佐部いく子/崎崎通康/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/鈴木順一/鈴木 亮/高下謙吉/  
 武上由佳/田中 進/戸田純也/外山雄三/鳥居荘太/内藤基之/中塚一雄/中西達郎/中野洋子/  
 中村健司/中山昌樹/名取正夫/西村勉美/原田清朗/日原洋文/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/  
 牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/丸井正樹/箕輪永世/宮島正次/宮田宜子/宮武悦子/宮原 薫/  
 宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/  
 横手 聡/渡邊一夫/渡辺弘次/渡辺由香里  
 ほか匿名44名 計222口 (2023年8月1日現在)

#### 特別支援会員 (五十音順・株式会社等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/  
 大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/  
 鴻池運輸/小松シャリリング/山九/産業振興/三見金属工業/  
 サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/  
 スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/  
 鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/  
 東邦シートフレーム/トビー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/  
 日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/  
 日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/  
 日鉄工材/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/  
 日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精鋼/  
 日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジー/  
 日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/  
 日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ポルテン/  
 日鉄溶接工業/日鉄レールウエイテクノス/日本金属/日本触媒/  
 濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/  
 幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/  
 吉川工業/ワコースチール  
 日本製鉄 (2023年8月1日現在)

フォトレポート

5.31(水) 和生・勘十郎・玉男三人会 第二回  
「恋女房染分手綱 重の井子別れの段」「伊賀越道中双六 千本松原の段」



アンケートより

本公演ではあまり観られないお三方揃い踏みの舞台上で特に「重の井子別れ」がよかったです。勘十郎さんの三吉に涙…。座談会も今年は児玉先生のリードで短い時間に芸のお話や国立建て替えのお話など聞きたいお話が凝縮されていて楽しめました。



© ヒダキトモコ

6.8(木) 三菱地所 presents 協賛：三菱地所株式会社  
紀尾井 明日への扉 第36回 大藤亮爾(チェンバロ)

アンケートより

パルティータとイギリス組曲が特に名演でした。それだけでなく、初期バロックも弾きこなし、メールロにうっとり。期待できる若手の登場に人生が明るくなりました！



© ヒダキトモコ

6.17(土) 新 紀尾井素踊りの会 第四回 西川箕乃助



西川箕乃助さんのために振り付けられた地歌「ちよんがれ一休」が披露されました。手の先の僅かな動きや目線使い、時には大胆な仕草で一休が持つ聖と俗の内面を表現されていました。

7.2(日) 豊澤富助をきく会



© ヒダキトモコ

本編90分を休憩なしで演奏されました。太夫・三味線二人の渾身の語り・演奏に、人形はなくとも情景が目に見え、大迫力の舞台でした。後半の対談では豊澤富助さんが再び登場。チャーミングな一面も見せてくれました。

チケットのお申込み  
紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>  
公式 SNS で最新情報配信中  
紀尾井ホール 紀尾井ホール 室内管弦楽団

紀尾井ホール  
公益財団法人 日本製鉄文化財団  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号  
TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>  
公演の最新情報などは [こちら](#)